

大槌まつり



「曳き船」が 8年ぶりの復活

9月21日(金)～9月23日(日)、大槌稲荷神社例大祭と小鉈神社例大祭が行われました。復興の進む街並みとともに、年々にぎわいを増す大槌のまつり。今年町民の注目を集めたのは、何と言っても震災後初めてとなる「曳き船」まつりでした。この催しは、漁の安全と大漁を祈願して、大槌稲荷神社の例祭で古くから行われてきました。東日本大震災以降、中断していたため、8年ぶりの開催。当日はあいにくの雨となりましたが、会場となった大槌魚市場には多くの観客が集まり、迫力ある船団に沸きました。フライ旗に飾られ、神輿を乗せた御召船(おめしせん)を中央に、虎舞や神楽、鹿子踊りらの団体が乗る船



が大槌湾内を周回すると、眺める人々の中には、感動の涙を流す姿もありました。23日、快晴となった小鉈神社例大祭では、2基の神輿が町内を練り歩き、最後には、多くの観衆の見守る中、小鉈川を渡りました。



吉里吉里まつり

新しい街並みをにぎやかに練り歩く

8月25日(土)、26日(日)には、吉里吉里まつりが行われました。小雨の降るあいにくの天気となりましたが、地元の郷土芸能団体が行列をつくり、神輿とともに吉里吉里の町を歩きました。町には、大きな鮭の形をした町内会の山車が姿を見せて、餅まきなどが行われました。

祭りの行列は新しい住宅が立ち並ぶ町の中を通り抜け、沿道は多くの人でにぎわいました。

